

# 新設講座紹介



## 寄附講座「四肢外傷再建学講座」の紹介

**四宮 陸雄** 大学院医系科学研究科 四肢外傷再建学 寄附講座准教授

生命を脅かすような重度外傷の治療において、如何に生命を救い、四肢を救い、そして患者の生活を取り戻すかが重要です。しかし、このような外傷においては救命処置が最優先とされるため、救命されても「防ぎえた外傷後遺障害」に苦しむ場合があります。このような「防ぎえた外傷後遺障害」をゼロにすることを目的に2020年4月1日、「四肢外傷再建学講座」が開設されました。

本講座の開設により、四肢外傷に特化した整形外科医が救命センターに配属されました。今後は、これまで分散されていた重度四肢外傷患者が集約化され、受傷後早期に四肢再建が可能となります。救命に加えて四肢機能の再獲得が期待されています。

また、政府が掲げる働き方改革や病院の統廃合を念頭に置くと、外傷治療は患者に加え医療者側の集約化も必要であることは明白です。我々は未来を見越した広島の外傷治療の基盤を広島大学病院につくることも大きな課題と考えて取り組んで参ります。



脱臼して変形した右膝



脱臼の影響で膝窩動脈損傷



## 寄附講座「共生社会医学講座」の開設にあたって

**石井 伸弥** 大学院医系科学研究科 共生社会医学 寄附講座教授

皆様、はじめまして。この度、令和2年4月、大学院医系科学研究科に共生社会医学講座を開設させていただきました。この講座では認知症を軸として地域社会作りとはどうあるべきか、ということテーマとしています。

2012年に行われた全国調査では認知症の人は462万人、高齢者の約7人に1人が認知症と推計されました。その後も認知症の人の数は増え続け、現在では500万人を超えると考えられています。同様の推計手法を用いると、広島県においても今後20年間ほどで認知症の人は約4万人増えるだろうと考えられます。

このような背景の中、認知症は誰もがなり得るありふれた疾患なのだから、認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人と寄り添いながら、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができる、つまり「共生」する社会を目指した環境整備を行っていくことが重要とする考え方が広まってきました。こうした考え方は令和元年に取りまとめられた「認知症施策推進大綱」等の認知症に対する国の施策にも表れています。しかし、こうした環境を実現するためには認知症の人をケアする人材の育成、生活に密着した企業との連携、実態を調べるための調査研究やそれに基づく施策など多角的な取り組みが欠かせません。本講座では県内企業や認知症医療・介護に関わる施設、自治体等と連携して認知症地域包括ケアを含めた地域共生社会の実現を目指して取り組んで参ります。